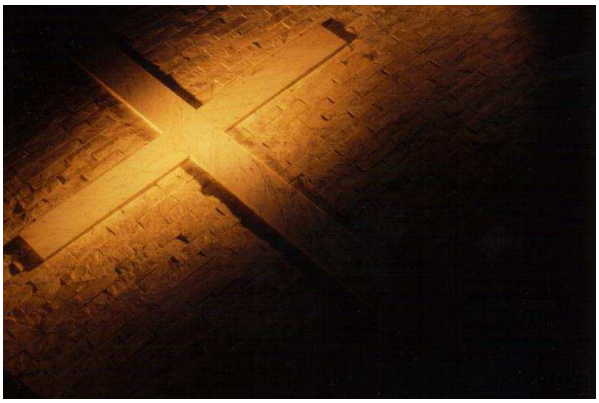
アンデレ宣教神学院

Andrew Evangelistic Seminary

毎年５月開講

目　次

ごあいさつ …… 2
当神学院の目指すもの …… 3
教義 …… 4－5
教授紹介 …… 6－7
特徴 …… 8
牧師･伝道者コースの特徴… 9－10
カリキュラムの説明 …… 11
学習内容について …… 12
初年度開講科目 …… 13
科目紹介 …… 14－17
入学資格・入学手続き …… 18－19
経費 …… 20
規則・規定 …… 21
沿革 …… 22
アクセス・連絡先 …… 23



ごあいさつ

日本の社会の第一線で通用し、社会のニーズに十分応えていくことのできるスケールの大きな牧師・伝道者の養成を目指しています。

アンデレ宣教神学院代表
万代（まんだい） 栄嗣（えいじ）

永年、リバイバルを祈りつづけてきた日本のキリスト教界が、今、真剣に取り組まなければならないのは、キリストを知らない９９％の人々への伝道です。日本のキリスト教界は、さまざまな困難を乗り越え、聖書に基づく信仰を貫き通し確固たる基盤を形成しました。しかし私達はこの信仰基盤を継承しつつ、更に新たな飛躍を成し遂げなければなりません。

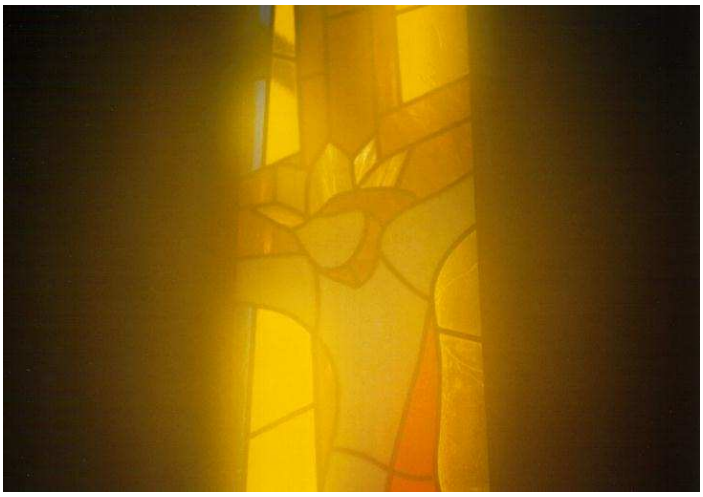
アンデレ宣教神学院では、１％の枠を越え９９％の人々に通用しリードすることのできるスケールの大きな牧師・伝道者の養成を目指しています。日本を取り巻く状況はここ数十年で大きく変化しました。教育、文化、経済のいずれにおいてもその向上は目覚ましいものです。この日本人を霊的・精神的にリードし、イエス・キリストの救いに導き、確かな信仰生活の導き手となる牧師・伝道者には、医師や弁護士に引けを取らない充実した学びと、その学びを生かすことのできる実践力を身につけることが必要です。

私たちの熱い思いは、アンデレ宣教神学院の働きを通して多くの実績と賛同者を生み出しています。日本のリバイバルの実現を真剣に願う優秀な人材が当学院に参集してくださることを期待しています。アンデレ宣教神学院には生きて働く信仰の実践、福音宣教への新しい挑戦を絶えず追求し続けるスピリットが溢れています。

当神学院の目指すもの

アンデレ宣教神学院は、キリスト信仰の現代社会における妥協を許さない実践のために、福音宣教のために献身を決意した者たちを教育・訓練し、将来の様々な分野における効果的な伝道活動へと送り出す、福音主義信仰に立脚した神学校です。当学院は、設立母体である宗教法人・日本福音宣教会の幅広い宣教活動の一部として運営されますが、日本福音宣教会が従来、超教派の立場を貫いて、福音宣教に携わっていると同様に、当学院は多くの教派・教団、あるいは単立教会等から、超教派的視点に基づき、生徒を募集しています。

当学院では、現代人に一番欠けており、なおかつ最も必要としているものは唯一まことの神への信仰である、との確信に基づき将来のキリスト教界を背負って立つべき人材に、伝統的な神学教育の成果と現代社会に十分に通用する、実践面の伴った信仰の基礎を提供することを目的としています。当学院が志向するキリスト教職者となるものたちへの専門教育とは、ただ単なる知識の伝達、技術の伝授を意味するのではなく、授業時間以外でも教師・学生達との交わり、宣教実践などを通し、個々人と積極的に関わることにより、純粋な信仰、徹底した学び、妥協のない実践、そして鋭敏な霊性を兼ね備えたスケールの大きな神の器を生み出すことにあります。



PRINCIPLE [教義]

アンデレ宣教神学院において尊守される教義・信仰告白は、聖書の権威に正しく基づくものであり、初代教会以来、キリスト者の信仰と実践の中で厳格に検証され受容されてきたものでなければなりません。当学院の超教派的視点に基づき、総括的には、使徒信条をはじめとする初代教会の信条、また伝統的なプロテスタント教会における信仰告白を認めるとともに、具体的には日本福音宣教会の教義に従って、以下に示した信仰告白を尊守します。

Ⅰ. 私達は、唯一まことの神、霊であり全てのものの創造主なる神を信じます。神は全知全能愛と義に満ちた完全な神であられ、本質においてまったく一つでありながら、父・子・聖霊の三位一体なる神として永遠に存在しておられます。神は万物を無から創造され、全てを保ち支配しておられます、創造された世界を通して御自身を啓示される神は、明確な救いの意図をもって人間歴史に介入され時には言葉をもって語り、あるいは様々な出来事によって御自身を示されました。この救済の歴史は、肉となられた生ける神のことばであるイエス・キリストのうちに完成し、その事実は聖書に示され、聖霊の働きにより私達に明らかにされます。

Ⅱ. 私達は旧・新約聖書が神の霊感によって書かれたものであり、神の自らに関する啓示の最も本質的かつ信頼できるものであり、神が人の救いのために示された意志の完全な啓示であること、また、全てのキリスト者の信仰と日々の実践のための誤りなき原則、至上の権威であることを信じます。聖書各巻は初め信仰者であるそれぞれの著者により、神との交わりの中で特定の歴史的背景・目的をもって書かれましたが、その過程は聖霊の明確な指導と監督のもとに行われ、この結果、聖書は今も生きて働く神の御言葉として、変わることのない神の御旨を私達に示しています。

Ⅲ. 私達は、イエス・キリストが聖霊によってやどり、処女マリヤより生まれた方であり、真の神、真の人であることを信じます。彼は神のひとり子でありながら、人としての生活を全き柔順のうちに成し遂げられ、神の救いの計画が彼の到来により成就したことをその教えとわざの中で証明されました。彼は私たちの罪のために犠牲となり、身代わりとなって十字架上で死なれ、葬られ、私達の罪をあがなったのち、３日目に死より甦り、死と闇の力に打ち勝たれました。その後、天に上り、父なる神の右の座につき、私達の大祭司としてとりなしをしていてくださいます。彼は全てのキリスト者の主であり、全てを父なる神と共に治めておられます。

Ⅳ. 私達は、聖霊が私達の内に働いて罪を示し、罪の悔い改めに導き、イエスを主であると告白させ、完全な新生を与え、キリスト者の内に住みたもう方であることを信じます。聖霊は、助け主、慰め主として私達と共におられ、絶えずとりなし、私達を聖化し、神への奉仕と日々の生活のために力を与えてくださる方であることを信じます。

Ⅴ. 私達は、神が人を、被造物のかしらとして神との交わりに生きるように、ご自身のかたちに創造されたこと、また、悪魔に誘惑され人は意図的に神に反逆し、罪に堕ち、失われたものとなり、神の怒りを身に負い、いかなる努力や行いによっても神との交わりにある真の霊的生活を回復することはできないものであることを信じます。人は生まれながらにして、また、意識的にも罪のために堕落しており、救い主イエス・キリストによる罪のあがないによらないでは、ただ永遠の滅びにいたるばかりです。

Ⅵ. 私達は、イエス・キリストの流された血潮と彼の復活のみが人の救いを可能ならしめることまた、人はイエス・キリストを信じ受け入れ、罪を悔い改め、全身全霊をもってキリストに従う信仰によってのみ、備えられた神の恵みにより、罪を許され、義と認められ、新生にあずかることを信じます。この救いにあずかることにより、私達は罪の支配と刑罰から解放され、神の子として永遠のいのちを受けることができます。

Ⅶ. 私達はイエス・キリストによってあらわされた神の恵みにより、御言葉の学びと祈りとにより、日々祝福のうちを歩むものとされたことを信じます。新約聖書に示された聖徒たちの信仰による経験が、今日のキリスト者にも与えられるものであると信じ、神癒・異言・聖霊の賜物と実などに表される豊かな聖霊の働きの中に生き、キリスト者としての節度ある生活を営むことができます。また、常に喜び、救いにあずからせていただいた神の選びの恵みに感謝しつつ、世の光、地の塩であるキリストの証し人として生き生きと歩み、主の再び来たりたもう日を待ち望みつつ、福音伝道に励みます。

Ⅷ. 私達は洗礼と聖餐とが今日の教会において執り行われるべき礼典であると信じます。洗礼は、イエス・キリストを主と信じ告白するもののみに授けられ、罪の身が十字架に死に、復活において新生にあずかることを象徴し、聖餐は、イエス・キリストのあがないの死を記念するものであり、私達の救いの原点を確認し、主の再臨に至るまでの希望と、私達に課せられた使命とを再確認させるものです。これらの二つの礼典は、個々人が神への正しい信仰をもって享受するときに真に意味を持つものであり、礼典そのものが救いへの手段ではありません。

Ⅸ. 私達はまことの普遍的教会とは、イエス・キリストを信じる信仰により、あがなわれ、新生にあずかったものたちが、共に集まり、結びつけられて形成されるものであり、キリストのからだであり、そのかしらは救い主イエス・キリストであることを信じます。各個教会においては、神への礼拝がもたれ、御言葉が語られ、礼典が執り行われ、全てのものを救いに導くため日々の牧会・伝道活動を通して、福音が述べ伝えられ、全ての信徒がひとしく福音伝道に携わります。私達の生活は、礼拝を守ることから始まり、神の救いを喜びとし、御言葉を学び、祈りをなし、人々のありのままの必要に対処しつつキリストを証し、兄弟姉妹と祝福を分かち合います。

Ⅹ. 私達は主イエス・キリストの再臨を信じます。神の救済の歴史はキリストの再臨によって全く完結し、神は人を死から甦らせ、全てのものを生前の行いについて裁かれます。神を認めず罪にとどまったものは永遠の刑罰として神の臨在から隔絶され、キリストの救いにあずかるものは栄光の身体を受け、神と共に交わり、生きる、永遠の祝福が与えられます。再臨の主は全てのものを新たにし、神の国を完成されます。

教授紹介

万代栄嗣（まんだい　えいじ）：代表、日本福音宣教会・松山、東京、神戸、広島、高松福岡、鹿児島、大洲、各福音センターの主任牧師

アメリカ留学で培った広い視野と神学的基盤をもとに、神のことばとしての聖書を現代人としていかに正しく読み、どのように現代社会に適用するか、そのために必要な信仰の心構えと学問の姿勢を体系的に講義する。二代目牧師としての視点と、講演、執筆、音楽活動や海外の神学校教授、海外伝道などの広範囲な活動を通して、最新の聖書学・神学の成果を福音宣教の働きに統合することを目指す。バンド活動では、ヴォーカルとギター担当。

神戸大卒、オラル・ロバーツ大大学院修了。

藤林イザヤ（ふじばやし いざや）：京都福音教会・京都中央チャペル主任牧師

当神学院の卒業生のなかでもトップの実力を誇り、伝道と学びに対するバイタリティー溢れる姿勢には圧倒される迫力がある。聖書の知識と、個人伝道から大規模なクルセード、ビジネスセミナーなど様々な経験と IT 関連の現代的手法も積極的に取り入れ、実践に生かせる有益な学びを提供する。個々の学生のニーズに応えて丁寧に指導する。

同志社大卒、日本 IBM 勤務、アンデレ宣教神学院卒、同志社大神学部博士課程。

岡照芳（おか　てるよし）：日本福音宣教会・松山福音センターおよび東京福音センター伝道師

豊富な知識に基づき、聖書の学びに関する基本姿勢と聖書の基礎知識について丁寧に指導する。

高校の国語の教師としての経歴が活かされた、分かりやすくまとめられた授業、聖書に対する文学的解釈や、ギリシャ語のユニークな授業も学生たちに好評である。大学時代は、教授から俳句の才能に期待されていた。

静岡大卒、アンデレ宣教神学院卒。

大野裕彦（おおの　ひろひこ）：日本福音宣教会・松山福音センターおよび広島福音センター伝道師

同志社大学神学部を経て、アンデレ宣教神学院を卒業。抜群の記憶力とクリスチャンホームで培った知識と経験、松山福音センターでの伝道、牧会経験は、授業においてもその威力を大いに発揮する。

祈祷会や路傍伝道などの実践的な科目も担当し、常に新しい試みにチャレンジしている。趣味はバイクのツーリング。

アンデレ宣教神学院卒。

久保内宣世：日本福音宣教会・高知西福音教会牧師
くぼうち　のりよ

牧師子弟として培った知識と経験、高知西福音教会での牧会経験をもとに、次代を担う者の視点を学生たちと共有し、後継者として期待される人材に有意義な学びを提供する。これからの教会のあり方を見据え、地方の教会の展開についても様々な実験を試みている。
ペットからパソコン機器まで多趣味で、どれもプロが意見を求めてくるほどの知識と技術を持つ。
四国学院大卒、アンデレ宣教神学院卒。

万代文女：元大学講師
まんだい　あやめ

一般心理学の分野での本格的な学びを提供してくれる。複雑な社会状況と、教育レベルの高度化した現代日本人社会の中で、牧師・伝道師を目指すものにとって、一般心理学は必修の科目と言える。
しかし、伝道、牧会、各種のカウンセリングの現場において、体系的な心理学の知識をどのように活かしてしていくかについての学びができる場所は少なく、大変重要で価値ある学びを提供している。
大阪大卒、神戸大大学院および愛媛大学大学院修了。

戒田節子：フリーアナウンサー・元南海放送アナウンサー
かいだ　せつこ

スピーチ・クリニックを担当。発声からスピーチまで、プロのアナウンサーとしての知識と経験に基づく本格的指導を提供。
アナウンサーコンテストでは、何度も日本一に輝き、ミュージカルの主催者として脚本、作詞作曲、主演をこなす多才振りで、言葉の表現のみならず表情やボディーランゲージまで、プロの説教者として通用するための基礎を教授する。毎回意表をつく授業で好評を博している。
日本大学卒。

その他、講義内容により各方面より実力派講師を多数特別講師として招へいしています。

特　徴

アンデレ宣教神学院の特徴をまとめると以下のようになります。

クリスチャン・ビジネスマンのための神学校

当神学院は、日本における福音宣教の可能性に挑戦するため、実社会で活躍するクリスチャン・ビジネスマンに学ぶ機会を提供します。現在に至るまで実行に移し得なかった献身への決意を、現実のものとすることができます。具体的には、年３学期・１８スクーリング制の採用により、クリスチャン・ビジネスマンが現在の仕事を断念することなく、実社会での影響力とキリストにある証しの現実性を保ちつつ、牧師、伝道者となるための学びができるよう配慮されています。

実践派の献身者のための神学校

すでに、牧会・伝道活動をはじめていたり、教会の働きから離れられない献身者の活動を積極的にサポートします。集中スクーリング方式の採用により、学期中であっても月に１週間、基本的には月～土曜日の６日間各教会を離れるだけで学びを継続することができます。また、授業で取り扱われた内容も、すぐ牧会・伝道活動に応用することのできる実践的なものばかりです。

純粋な信仰

聖書を霊感によって書かれた生ける神の御言葉と認め、イエス・キリストの十字架の死と復活によってのみ与えられる救いと新生を信仰生活の土台とします。信仰をただ概念的なものとして捉えず、実際に信仰によって生きることを学生が体得することを目指します。

徹底した学び

牧師・伝道者が専門職であることを正確に捉え、この専門職のために必要不可欠な学術面における情報を学生が徹底的に吸収できるようカリキュラムが整備されています。伝統的な神学教育による学びをすすめると同時に、福音宣教を必要とする実社会の現実性・現代性を直視し、現代人のありのままの生活に適用する信仰の実践を支える知識・理論を体系的に網羅します。

妥協のない実践

神学校教育が勉強のための勉強に終始することなく、常に現実の救霊の働きへのフィードバックがなされることが目標とされます。従来の福音宣教の限界に捉われることなく、牧師・伝道者が強烈な信仰をもつのみならず、実践的行動科学の採用により理論に基づく徹底した行動、妥協のない実践を身につけるよう指導がなされます。日本福音宣教会との協力態勢により、在学中からユニークな伝道の働きに着手することができ、また、万代栄嗣牧師を始めとする、現代の福音宣教の第一線で活躍する牧師・伝道者による牧会・伝道コンサルタントを受けることができます。

敏感な霊性

学生が祈りの生活を発展させ、神との交わりの中に毎日の生活が構築されるよう指導されます。今も生きて働く神のみこころに常に敏感であり、聖霊の働きに常に対応し、その流れの中に福音宣教が実践されるための一信仰者として霊的覚醒が求められます。

超教派としての視点

当学院は、設立母体である日本福音宣教会の方針と同様、超教派的立場を維持します。よって、入学志願者は、必ずしも、日本福音宣教会に所属する教会員である必要はありません。また、学生は在学中及び卒業に際して、日本福音宣教会に対して、特別な責任等を負いません。当学院は、超教派の神学校として各派から学生を募集しています。

牧師・伝道者コースの特徴

コースの目的

この課程は、将来､福音宣教に携わることを望む者たちを教育・訓練し、宣教実践へと送り出すためのものです。
この課程は､学生を将来の牧師､伝道者､教会付きの伝道師､カウンセラー､あるいは宣教師として､様々な分野で活躍し､神に用いられる器となるよう備え､整えます。牧師伝道者となるための専門的知識の習得､より効果的な福音宣教のための技術の向上が目的とされます。
この課程で学ぶ題材は福音宣教に専業し､従事するために必要不可欠なものによって構成されています。

コースの終了

聖書学、神学・歴史学、牧会・宣教学、宣教実践から成る４つの分野に亘り、合計１３０単位を所定の手続きに従って修得することにより、牧師・伝道者コースにおける学習を終了したと認め、卒業資格審査のための学習面での要求を満たすものとします。
この課程の基本的な修業年限は３年（最長６年）となっています。

卒業

在学中、３回に亘る教職者資質検定（年１回）を通過することにより、牧師・伝道者として適切な信仰、召命感、価値観などを備えていると判断されたものは、以下の手続きに従って牧師・伝道者コースを卒業することができます。

卒業資格規定

日本福音宣教会アンデレ宣教神学院の牧師･伝道者コースに在籍している学生で同コース卒業を目的とする者は、以下に示す卒業資格の各条項の条件を満たすことが必要となります。

１．所定の出席規定に基づいて、牧師・伝道師コースの定める授業を受講し全１３０単位を取得すること。

２．アンデレ宣教神学院での勉強に伴う授業料等の諸経費を、卒業式までに全額納入すること。

３．卒業課題（PRM370）を、以下の２方式のうち１つ選択し、実施すること。

a）伝道実習
学生個人が将来従事したいと希望する伝道様式に最も近い形で､1年間を通して継続的に伝道活動を実践する。または、卒業課題として認められる特別集会･特別伝道等を自ら企画･製作･主催し、当神学院あるいは日本福音宣教会との協力態勢のもとで実施すること。ただし､これにかかわる費用は､原則的に主催する学生本人が負担すること。

b）研究論文
学生個人が特に興味､関心を持つ分野を選び(BIB､MIN､PRM の中より)､主題を定めて十分なリサーチをなしたうえで､研究論文を提出する。
研究論文は､400字詰め原稿用紙で100枚程度(あるいはそれ以上)のものとする。

教会奉仕研修制度

この制度は、皆様からのご希望によって通常のスクーリング以外の時間も、日本福音宣教会松山福音センターの寮での生活をしつつ、教会の準スタッフとして、毎日の活動的なプログラムを通じて、牧会・伝道の実地研修を積むことができます。

教会学校、家庭集会、青少年伝道、音楽伝道、放送伝道、コンピューター活用術など、教会や伝道の実践に沿っての研修です。
費用、条件等については直接事務局までお問い合わせください。

各コースの仕組みと説明

牧師･伝道者コース合計３年
プロの牧師･伝道者となるために、教会奉仕者コースのあと、さらに１年高度な学びと訓練をします

教会奉仕者コース合計２年
教会スタッフや奉仕者、日曜学校の先生、グループリーダーとなるため、一般信徒コースに加え、より深い学びと訓練をします

一般信徒コース１年
誰でも学べるわかりやすいキリスト教の基礎コースです
（オンライン可）

聴講制度
一般信徒コースの一部を成績や資格獲得を目的とせず１科目から学ぶことができます
（オンライン可）

アンデレ宣教神学院のコースの構成は、左記の図のようになっています。
各自の目的や状況に合わせてコース選択をすることができます。

カリキュラムの説明

アンデレ宣教神学院での学習は、当学院の特色である、年３学期・１８スクーリング制による当学院における実際の授業等と、スクーリング間に課せられる通信による課題、および、学生の選択する場においての宣教実践によって構成されています。

学習の範囲は、Ⅰ．聖書学に関する分野、Ⅱ．神学・歴史学に関する分野、Ⅲ．牧会・宣教学に関する分野、Ⅳ．宣教実践の４つの領域を含みます。

牧師・伝道者コースの完了のためには、上記の４分野に亘って合計１３０単位の修得が必要となります。分野Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについては、それぞれ３６単位の修得が必要であり、そのうち１８単位については、履習が義務づけられている科目による学習となります。また、分野Ⅳについては、２２単位全てが履修が必要とみなされる科目から構成されています。

カリキュラムの要約

Ⅰ．聖書学に関する分野（３６単位）

ａ．必修科目（１８単位）
ｂ．選択科目（１８単位）
合計　３６単位

Ⅱ．神学・歴史学に関する分野（３６単位）

ａ．必修科目（１８単位）
ｂ．選択科目（１８単位）
合計　３６単位

Ⅲ．牧会・宣教に関する分野（３６単位）

ａ．必修科目（１８単位）
ｂ．選択科目（１８単位）
合計　３６単位

Ⅳ．宣教実践（２２単位）

ａ．必修科目（２２単位）

※なお日本福音宣教会の指定あるいは認定する伝道活動に参加し、献身的に奉仕するものには、伝道実習の課題の全部あるいは一部を免除することがあります。

全４分野合計 合計１３０単位

学習内容について

バランスのとれた科目構成

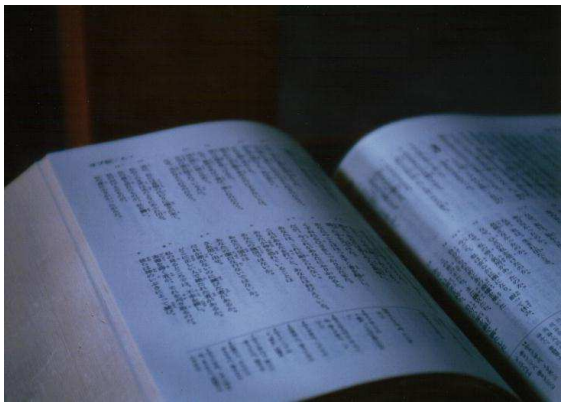
将来の働きに力を発揮する「聖書学」、「神学・歴史学」、「牧会・宣教学」「宣教実践」の４つの分野をバランスよく学びます。

開講科目

BIB・・・聖書学に関する分野　　THE・・・神学、歴史学に関する分野
MIN・・・牧会、宣教学に関する分野　　PRM・・・宣教実践に関する分野
初年度開講科目の詳細は次ページをご確認ください。

学習プログラム

アンデレ宣教神学院での、牧師・伝道師コースの学習プログラムは、原則として３年の期間を必要とします。
学習は年３学期・１８スクーリングによる授業とスクーリング間に実施される課題とによって構成されます。
勿論、学生各人の事情により修業年限が３年を超える場合も十分に考えられますので、最長６年までの受講期間延長が可能です。それ以上の場合は所定の手続きによる許可が必要となります。



初年度開講科目

（2年次の科目は、開講前にお知らせします）

学期	科目 ID	科目名	単位	概　要
1	BIB010	聖書概論Ⅰ	3	これだけは知っておきたい聖書の基礎知識を学びます。Ⅰは、創世記からエステル記までです。
1	THE091	神学概論Ⅰ	3	神とは、罪とは、三位一体とは？キリスト信仰の基本教理１５項目をわかりやすく学べます。
1	MIN010	キリスト者形成論	3	救われているとはどういうことなのかなど、大切な７つの原則と心構えについて学びます。
1	BIB201	聖書解釈学入門	3	聖書の成り立ちや聖書言語の構造、講解説教作成の基礎と実際の手順について学び、説教を作成します。
2	BIB020	聖書概論Ⅱ	3	旧約聖書のヨブ記から最後のマラキ書まで、それぞれの内容、テーマ、背景、重要聖句を学びます。
2	THE020	神学概論Ⅱ	3	キリスト教会が誕生してから 2000 年、その歴史を学び、現代に生きる使命を実感します。
2	MIN030	福音宣教入門	3	福音宣教における概念と実践の部分を併せて学び、個人の証しができるようにします。
2	THE190	神学特講	3	キリスト信仰の体系と説教者の役割、神学的思考の方法と信仰生活への適用方法を学びます。
3	BIB030	聖書概論Ⅲ	3	新約聖書の２９巻すべての内容、テーマ、背景、重要聖句など基礎的な知識をしっかり学びます。
3	THE030	神学概論Ⅲ	3	「神がいるなら見せて」等の質問にどう答えるか。キリスト教弁証法について解説します。
3	MIN040	教会形成論	3	教会のあるべき姿を考えながら、信徒としていかに教会を支えるか、その実際的な部分を学びます。
3	MIN230	福音宣教緒論	3	福音の基本的な意味から個人伝道や現代的な手法を用いた伝道やカウンセリング方法を学び訓練を行います。
通年	MIN050	キリスト者の積極思考	3	キリスト者としての積極的思考を聖書の御言葉をもとに身に付ける方法を学びます。
通年	THE090	神学総論	3	神学全体を分かりやすく概観しながら自分自身で考える力を身に付けていきます。
通年	PRM060	レポート作成講座	3	レポートや論文の書き方を学ぶコースです。文章作成技術を身に付けることができます。
通年	PRM070	伝道実習入門	3	路傍伝道を中心として、実際に街中で伝道をします。実地訓練と思ってください。
通年	PRM110	説教実習Ⅰ	3	担当教授の指導により、自らの証しを短いメッセージにまとめ、会衆の前で発表します。
通年	PRM020	スピーチクリニック入門	1	南海放送現役アナウンサーが、話し方の基本を、丁寧にかつ面白く指導してくれます。
通年	PRM090	伝道者としての英会話入門	1	英語で自己紹介ができ、証しができる程度までの英語力を身につけます。
通年	PRM080	コンピューター実習入門	1	パソコンは教会業務には欠かせません。パソコンを使えるように初歩から練習します。
通年	BIB080 THE080 MIN080	読書課題	各１	担当教授の選定する各分野の入門書的な本を課題として読んでいきます。
通年	BIB190	聖書言語入門	3	聖書が書かれたギリシャ語とヘブル語の基礎を学びます。

■ 授業は、各学期ごとに終了するものと通年のものがあります。

■ 科目コードの内訳：BIB…聖書学に関する分野　THE…神学・歴史学に関する分野
MIN…牧会・宣教学に関する分野　PRM…宣教実践に関する分野

科目紹介

年度や講師により、この中から開講されますので、全ての科目を学ぶものではありません。

＜分野Ⅰ：聖書学に関する分野＞

BIB100　聖書概説　(3単位)
旧・新約聖書全体と、その主な内容を聖書固有の主題に特に注意を払いながら学ぶ。旧・新約聖書の相互関係性、継続性、一貫性について理解する。学生には、聖書を通読し、その内容に対しての理解を今後の学習のために体系的に整理することが求められる。

BIB120　聖書の積極思考　(3単位)
聖書のもつ普遍的メッセージの中より、実践的行動哲学としての積極思考を考察する。

BIB130　旧約聖書緒論　(3単位)
旧約聖書の文学、内容、歴史に関する学び。古代からペルシャ時代に至るまでの歴史の中で、どのように旧約聖書が形成されてきたか、また、その神学の概要にも触れながら、今日的課題とされる分野の研究なども紹介する。

BIB160　新約聖書緒論　(3単位)
新約聖書の総合的研究。新約聖書のもつ歴史、文学、そして神学の各要素を、今日の課題として取り扱われている様々な主題、研究法などにも触れながら学習する。

BIB170　第１、２コリント人への手紙　(3単位)
両書簡に関わる歴史的背景、文学的性格、また神学論争などに注目しながら、この教会を通して与えられたメッセージと、現代の教会とその礼拝、福音宣教の状態とを比較・対照しながら学習する。

BIB175　パウロの生涯と神学　(3単位)
パウロの生涯をキリスト信仰との接点の観点から考察し、一般にパウロによる著作と考えられている書簡をもとに、初代教会の中心的思想を形成したパウロ神学を体系的に研究する。

BIB190　ギリシャ語Ⅰ　(3単位)
新約聖書の記されたコイネーギリシャ語の基本的文法と語い修得を目的とする。

BIB195　ヘブル語Ⅰ　(3単位)
旧約聖書の大部分はヘブル語によって書かれている。このヘブル語の基本的文法と語いを学習する。(学生の希望によって開講)

BIB200　聖書解釈学　(3単位)
聖書解釈に関する諸原則を学習する。今日の聖書研究法の概要を理解し、聖書釈義に関しての研究課題として論議されている事項についても認識を深める。最終的には、学生が、確固とした聖書解釈の手法を身につけることを目的する。

BIB220　聖書における聖霊　(3単位)
旧・新約聖書各巻に示される聖霊の働き、性質について、聖書学的見地からの考察を深める。

BIB230　旧約聖書歴史　(3単位)
古代イスラエルをその歴史的文化的環境を通して理解する。特に統一王国時代から聖書間時代までの推移に注意が向けられ、宗教組織の設立、礼拝形態の変化、神学の発展などを学ぶ。

BIB240　五書研究　(3単位)
五書（創世記・出エジプト記・レビ記・民数記・申命記）に示される歴史や神学、また文学形態などについて考察する。今日の聖書批評学において取り上げられる課題についても学び、五書のもつ聖書全体に対する重要性を認識する。

BIB250　詩篇講解　(3単位)
各詩篇の歴史的背景を探りながら、その神学と文学とを味わう。

BIB270　共観福音書講解　(3単位)
共観福音書がもつ今日的研究課題にも言及しながら、３福音書が語るイエス像についての学びを深める。イエスの人・教え・宣教について種々の批評学の成果をふまえた上で理解を深める。

BIB273　イエスのたとえ　(3単位)
イエスの教説の中でも特にユニークなものであるとされる“たとえ”を取り上げ、最新の聖書学の方法論を用いながら、よりオリジナルなイエスのメッセージに迫る。

BIB275　ルカ文学研究　(3単位)
ルカによる福音書、使徒行伝を講解研究する。歴史的、文化的、宗教的背景を考察するとともに、ルカ独自の聖霊論、救済史観などにも注目する。

BIB280　獄中書簡集講解　(3単位)
獄中書簡の歴史的背景をパウロの伝道活動の理解の上に捉えるとともに、そのメッセージを講解研究する。

BIB285　公同書簡集講解　(3単位)
一般に公同書簡と呼ばれる各書を取り上げ、その歴史的背景と神学の独自性に注目しながら講解研究する。

BIB290　ギリシャ語Ⅱ　(3単位)
BIB190 に引き続き、より高度な文法と語いの修得を目ざす。短文等の翻訳が可能になる。(この授業に先立って BIB190 を履習しておくこと。)

BIB295　ヘブル語Ⅱ　(3単位)
BIB195 の学習をさらに発展させ、旧約聖書から抜粋した文章が翻訳できることを目標とする。(学生の希望によって開講。この授業に先立って BIB195 を履習しておくこと。)

BIB320　聖書講解セミナー　(3単位)
今日の聖書批評学・解釈学の成果を評価しつつ、旧・新約聖書の中より指定された個所について聖書解釈の技法を適用し実習的に修得する。

BIB330　旧約聖書神学　(3単位)
旧約聖書にみられる主な神学的思想を、政治的、宗教的変化を伴う歴史の流れとの関連の中で、探索する。

BIB350　大預言書研究　(3単位)
イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ダニエルの各書を取り上げ、それぞれの歴史的背景、文学様式などに注目しながら、預言者達のメッセージを捉える。

BIB355　小預言書研究　(3単位)
旧約聖書のいわゆる小預言書群を取り上げ、それぞれが書かれた歴史的背景（特に捕囚との関連）を明確にし、その内容と目的、文学様式などを学習する。

BIB360　新約聖書神学　(3単位)
今日の聖書批評学の成果に基づき、新約聖書のもつ神学概念を体系的に整理し、その中にイエス・キリストを中心とする総合的視点の存在することを学習する。

BIB365　ヨハネ文学研究　(3単位)
ヨハネによる福音書、ヨハネの手紙Ⅰ,Ⅱ,Ⅲを学習する。著者問題等歴史的背景にも触れながら、ヨハネ文学のもつ新約神学への独自の貢献性などを考察する。

BIB370　新約聖書における十字架　(3単位)
新約聖書各巻を貫く一概念である十字架の意義を聖書学的見地から考察し、キリストの十字架を多角的に理解する。

BIB375　新約聖書におけるカリスマタ　(3単位)
カリスマタと呼ばれる聖霊の賜物、聖霊の現われについての記事を研究し、聖書学的見地から聖霊の働きに関する原則を確認する。

BIB380　パウロ書簡集講解　(3単位)
新約聖書中、一般にパウロによる著作と考えられているものについて、パウロの伝道活動の足跡を追いながら、歴史的景、神学的主題などについて研究する。

BIB385　ローマ人への手紙･ガラテヤ人への手紙
パウロ神学の中核をなすローマ書、ガラテヤ書の講解研究。パウロの捉える福音の意味を考察する。（３単位）

BIB390　ギリシャ語釈義文法　(3単位)
BIB290 の土台の上に、新約聖書中の各書を取り上げ、真のメッセージを抽出するための釈義文法の研究と応用。(この授業に先立って BIB290 を履習すること。)

BIB395　ヘブル語釈義文法　(3単位)
旧約聖書を実際の題材とし、既習のヘブル語知識を用いて正しい釈義を施すことを目的とする。(この授業に先立って BIB295 を履習すること。)

＜分野Ⅱ：神学・歴史学に関する分野＞

THE110 キリスト教史Ⅰ　(3単位)
キリスト信仰と教会の発展を使徒時代から宗教改革前までの期間について学ぶ。特に、歴史的働きや、神学的論議などに注目する。

THE130 キリスト教史Ⅱ　(3単位)
宗教改革期から現代に至るまでのキリスト信仰の推移と教会の発展について学ぶ。主点は、特に宗教改革期に置かれ、諸派の神学を学ぶとともに、宗教改革期の原因と発展、その影響を世界史的見地から捉える。(THE110 をこの授業に先立って履習していることが望ましい。)

THE140 キリスト教史Ⅲ　(3単位)
近代･現代のキリスト教史を概観するとともに、日本とい文化土壌、宗教土壌にキリスト信仰が今日までどのように導入され、受容されたかについて考察する。

THE150 日本文化とキリスト教　(3単位)
日本におけるキリスト教史を概観するとともに、日本という文化土壌、宗教土壌にキリスト信仰が今日までどのように導入され、受容されたかについて考察する。

THE160 祈りの神学　(3単位)
聖書に示される祈り、また今日に至るまでのキリスト者達によってなされてきた祈りとその実践を取り上げ、キリスト者の集まりと個人の霊的生活に不可欠な祈りについて学び、個人の祈りの生活の発展のための示唆を与える。

THE230 宗教改革期の神学　(3単位)
宗教改革期の主要人物（ルター、カルヴァン、ツヴィングリなど）を取り上げ、彼らの示した神学を歴史的背景から明らかにする中で捉える。

THE260 組織神学Ⅰ　(3単位)
キリスト教会神学への導入であり、神、啓示、創造、人についてのそれぞれの神学を学ぶ。

THE270 いやしの神学　(3単位)
使徒時代から今日に至るまでの神癒の神学と実践に関わる神学的･歴史的根拠を探る。特に１９、２０世紀アメリカにおけるリバイバル的な動向を検証し、今日における神癒伝道の論理と可能性を追求する。

THE280 組織神学Ⅱ　(3単位)
罪の概念、キリスト論、救済論、教会論、そして終末論について学ぶ。(この授業に先立って THE260 を履習していることが望ましい。)

THE290 聖霊論　(3単位)
旧約聖書から今日に至るまでの、聖霊の人格と働きに関する神学的･歴史的考察を行なう。組織神学の成果の上に聖霊に対する理解を正しく捉えるとともに、キリスト者の霊的生活に深く関わる聖霊の働きを理解する。

THE310 キリスト教倫理 (3単位)
キリスト教倫理のための神学的基盤を考察する。様々な倫理体系を聖書の記述とキリスト者の過去の実践を手がかりに検証する。

THE320 カリスマ運動…その歴史と神学(3単位)
ペンテコスタリズム、ネオ・ペンテコスタリズム、カリスマ運動として現在、世界のキリスト教界の流れに多大な影響を与える現代の聖霊の働きの起源と発展、その神学を学ぶ。カリスマ運動のグローバルな視点からの理解をもとに、日本のキリスト教会の今後を展望する。

THE350 比較宗教学 (3単位)
現代社会の主な宗教を取り上げ、それぞれの特長的な宗教性キリスト信仰の視点より比較・検証する。

THE370 現代キリスト教異端研究 (3単位)
今日、活発な働きを見せるキリスト教異端各派の神学的根拠と歴史的起源とを探り、実際の伝道活動におけるこれからの異端の対処の方法を論じる。

THE390 現代神学研究 (3単位)
１９、２０世紀の神学界の動向を展望する。シュライエルマッハーから今日の神学者まで著名各派を取り上げ考察する。

＜分野Ⅲ：牧会・宣教学に関する分野＞

MIN110 キリスト者形成論 (3単位)
キリスト者としての霊的生活の基準を検証する。救いと新生の意味を実践的に捉え、聖霊に満ちあふれる生活、教会生活の意義を考える。聖書の学び、祈り、奉仕、集会出席、献金などの具体的事例を取り上げつつ、躍動感に満ちたキリスト者像を理解する。

MIN120 クリスチャンとしての自己表現 (3単位)
キリスト者としての毎日の歩みを実践的行動哲学による６分野（精神・健康・経済・家庭・社会・教養）の視点から捉え、現代社会を生き抜くキリスト者としての真にバランス感覚の保たれた実践とは何か、とういうことを考察する。

MIN130 福音宣教入門 (3単位)
人を救いに導く福音の内容と性格とを新約聖書に基づいて把握すると共に、今日の社会における福音宣教の使命とその必要性とを考察する。

MIN150 説教学 (3単位)
説教に関する様々な理論が実際的に呈示される。説教作成の手順、説教構成の分析、あるいは、実際に説教する場合のコミュニケーション理論などを理解し、学生個人が自らの説教を向上させるための基礎とする。

MIN190 伝道者としての英会話Ⅰ (１単位)
広く国際感覚が個人に求められる現代、牧師・伝道者もその流れに対応できるものでなければならない。学生個人の英会話の能力に応じてグループを編成し、クリスチャンが関係する場面・題材を想定し、英会話能力の向上を目指す。英語聖句暗唱、英語での賛美などを採り入れつつ学習する。

MIN210 人格形成と信仰 (3単位)
人の一生を心理学的視点から人格形成の過程として捉え、信仰をもつという経験がどのような影響をもち、重要なものかを検証する。

MIN230 福音宣教緒論 (3単位)
現代日本において実施が可能であり、成果の期待できる種々の伝道様式を概観する。訪問伝道、路傍伝道、電話伝道、特別伝道集会、音楽・映画伝道、文書伝道、放送伝道など個人あるいは教会での実践可能な各種の伝道形態を、それぞれの分野の専門家を招いて学習する。

MIN250 現代牧師論Ⅰ (3単位)
既成の牧師概念にとらわれない全く自由でユニークな視点から、現代社会で十分に通用する牧師となるための、牧師資質に関する講義。牧師の信仰、学び、発想、行動などについて、いかに神に用いられる器となるか、検討がなされる。

MIN270 現代牧師論Ⅱ (3単位)
MIN250 において、既成の概念にとらわれない牧師としての自己概念を構築した上で、牧師として携わる実際的な宣教活動を考える。牧会・伝道における注意点、教会運営法など牧師の対外的活動を実践的に考察する。

MIN280 現代社会とキリスト信仰 (3単位)
現代社会がはらんだ様々な社会問題を取り上げ、キリスト者としての態度を明確にすると共に、伝道活動のなかで具体的にどう対処していくべきかについて検証する。(家庭内暴力、浮気、離婚、アルコール中毒、エイズ、失業、ノイローゼ、フリーセックス、登校拒否など。)

MIN290 伝道者としての英会話Ⅱ (１単位)
MIN190 で修得した能力に基づき、さらに発展向上を目指し、英語での祈りや救いの証しなどが行えるよう練習する。

MIN310 牧会カウンセリング論 (3単位)
牧会カウンセリングの理論と技術について学ぶ。カウンセリングの心理学的基礎を学び、牧会活動におけるカウンセリングの必要性と、聖書に基づくカウンセリングの技術等を修得する。

MIN330 牧会実践論 (3単位)
牧会に関わる教会の諸活動を取り上げ、実施上の基本的方法論・配慮・注意事項などを学び、現代社会に適応する新しい教会のあり方を検証する。

MIN340 開拓伝道・教会成長論 (3単位)
現代日本という文化土壌のなかで、教会を生み出すための論理を全く新しい視点から考察。また、日本の教会にとっての教会成長の可能性とその論理を、常に実践からの経験に基づいて考察する。

MIN350 リバイバルの神学と実践 (3単位)
宗教改革以降の著名な信仰復興現象に着目し、その神学と実践を学び、今日の日本の現状において、リバイバルを経験するために必要となる緒条件を追求し、実践への適用を目指す。

MIN360 個人伝道論　(3単位)
福音伝道の基本的形態である個人伝道についての方法論を学習する。授業で得た知識が常に実践にフィードバックされることが求められる。

MIN370 海外宣教論　(3単位)
教会に課せられた使命である世界的視野での宣教活動の意味を捉え直し、宣教活動や海外伝道の支援など、長期、短期に亘るそれぞれの宣教活動の方法論を、現代日本の現状を踏まえたうえで実践的に検証する。

MIN380 社会講演論　(3単位)
牧師・伝道者として実社会に飛び込み、神を信じる価値観を土台に、企業講演・教育講演等を行なうための理論と実戦に関する考察。

MIN390 伝道者としての英会話Ⅲ　(１単位)
MIN１９０、２９０の成果を土台に英語での簡略な奨励や説教ができるように学習する。

＜分野Ⅳ：宣教実践＞

PRM110 説教実習Ⅰ　(１単位)
学生の選択による自由主題の説教実習。説教に関する講義と、説教実習、評価会から成る。

PRM130 説教実習Ⅱ　(１単位)
主題・伝道説教が主点となる。主題・伝道説教に関する講義と、説教実習、評価会から成る。

PRM150 説教実習Ⅲ　(１単位)
主題・牧会説教が主点となる。主題・牧会説教に関する講義と、説教実習、評価会から成る。

PRM170 伝道実習Ⅰ　(3単位)
１年間を通して様々な伝道様式（路傍伝道・訪問伝道・電話伝道など）を実際に体験し、個人の希望する場で伝道活動を実践する。PRM170、PRM270、PRM370の実践を通して最低１０名の者をキリストに導き、明確な信仰告白と洗礼にまで導くこと。

PRM210 説教実習Ⅳ　(１単位)
講解・伝道説教が主点となる。講解・伝道説教に関する講義と、説教実習、評価会から成る。

PRM230 説教実習Ⅴ　(１単位)
講解・牧会説教が主点となる。講解・牧会説教に関する講義と、説教実習、講義と、説教実習、評価会から成る。

PRM250 説教実習Ⅵ　(１単位)
結婚式、葬式、洗礼式、記念会、聖餐式等の特種な場面における説教の実習。講義と説教実習・評価会から成る。

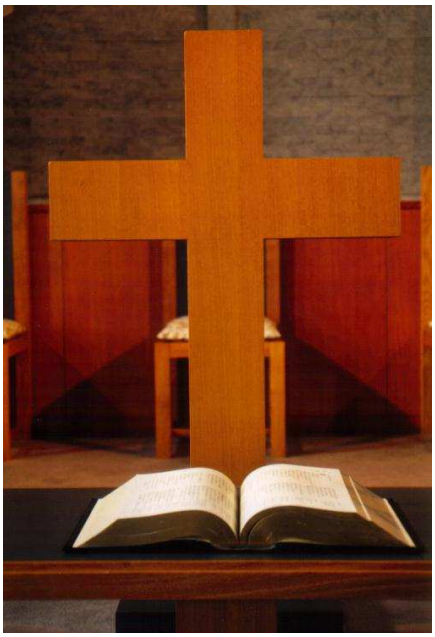
PRM270 伝道実習Ⅱ　(3単位)
教師との相談の上、個人が将来希望する福音宣教活動に関わりが深いと考えられる伝道様式を選択し、個人の希望する場で伝道活動を実践する。PRM170、PRM270、PRM370 の実践を通して最低 10 名の者をキリストに導き、明確な信仰告白と洗礼にまで導くこと。

PRM310 説教実習Ⅶ　(１単位)
教義に関する説教が主点となる。キリスト信仰の中核をなす教義の中からいくつかの題材を選び、説教を実習する。講義、説教実習、評価会から成る。

PRM330 説教実習Ⅷ　(１単位)
学生が、将来最も中心的に携わりたいと願う伝道様式、また、本人の個性・適性を考慮して、個人に最も適した説教法の修得をめざし、自由な題材を用いて実習する。講義、説教実習、評価会から成る。

PRM350 説教実習Ⅸ　(１単位)
PRM330 をさらに発展させ、教師が設定する状況の中で、指定する題材を用いて、個人のスタイルに沿した説教を構成し実習する。講義、説教実習、評価会から成る。

PRM370 伝道実習Ⅲ（卒業課題）　(4単位)
学生個人が将来従事したいと希望する伝道様式に最も近い形で１年間を通して伝道活動を実践する。また、卒業課題として認められる特別集会・特別伝道等を自ら企画・製作し、当学院あるいは日本福音宣教会との協力体制の下で実施すること。PRM170、PRM270、PRM370 の実践を通して最低１０名の者をキリストに導き、明確な信仰告白と洗礼にまで導くこと。



入学資格・手続き

入学資格

アンデレ宣教神学院の「牧師・伝道者コース」への入学のためには、下記に示した諸条件を満たす者であることが原則として必要です。尚、聴講生としての受講許可については下に示された入学資格を基本として、出願に際して個別に検討し、受講の可否を判断するものとします。

信仰面

・キリストによる明確な救いの体験と、それに関わる信仰告白をもっていること。また、入学志願者の実生活での姿勢、態度がキリスト信仰を裏付け、証しする者であること。
・洗礼をすでに受けており、いずれかのキリスト教会に属しており、教会の活動に積極的に参加していること。

学力面

・牧師・伝道者としての専門的知識習得のため、当学院での学習の基礎として、入学志願者は、四年制大学の神学部卒業資格を有するか、他の神学校卒業または当学院の教会奉仕者コースを修了していること。

社会面

・現代日本の実社会にあって通用する積極的信仰の実践のため、入学志願者は社会との接点をもち続けるクリスチャン・ビジネスマンであること。あるいは、将来の牧師・伝道者へ向けての明確なビジョンをもち、徹底した献身生活・牧会・伝道活動を在学中も継続していく強固な意志をもっていること。

召命感

・以上の諸条件を満たした上で、入学志願者は現代日本の神を知らずに滅び行く魂の救いのために何らかの形で自らを用い、神の働きに参加していこうとする意志をもち、神が自分の人生に介入しておられ、神の働きに直接参加することを求めておられることについての認識を有すること。このことは、将来の牧師・伝道者としてのより明確な召命感を確立する基礎となる重要なことである。

入学手続き

願書請求方法

住所・氏名・電話番号・所属教会及び願書希望と明記の上、以下のいずれかの方法にて、アンデレ宣教神学院事務局までご請求ください。

電話：089-925-1499　FAX：089-925-1501

E-mail：aes@mission.or.jp

郵便：〒790-0807　松山市平和通１－６－６

本人が提出するもの

- 入学願書（写真貼付、個人履歴、入学の意志に基づく署名捺印、名刺等を添える）
- 入学志願者の信仰歴
- 入学志願者の将来の希望
- 入学志願者の当学院を志望する理由
- 入学志願者の出版物、教会紹介、会社紹介等

その他の人からの推薦状

- 配偶者または家族による推薦状(1 通)

  配偶者または家族から見ての入学志願者の当学院志願の適性、当学院志願に対する配偶者または家族本人の賛否、推薦者がクリスチャンの場合、配偶者または家族から見た入学志願者の信仰とその実践の評価

- 牧師および信徒の友人による推薦状（各１通ずつ）

  入学志願者の信仰及び客観的視点から見た人間性を評価し、牧師・伝道者としての資質を評価

- 未信者による推薦状（１通）

  特に入学志願者の実生活における一社会人としての評価をふまえた上での推薦状

※これら本人以外による推薦状は、直接当学院に郵送されるものとし、入学志願者には公表しないこととし、客観的な評価を求める。

経　費

下記の諸経費がアンデレ宣教神学院への入学、受講に関して必要となります。なお、諸事情の変化に伴い、予告なしに料金を変更することがあります。

牧師・伝道者コース

- 入学金および設備費：3年間で90,000円

  入学時に一括支払いをしていない場合は毎年度初めに30,000円(払い戻し対象外)

- 授業料：１単位あたり10,000円

  但し、１学期１３単位以以上履修の場合　１学期あたり135,000円(年間405, 000円)

＊聴講を認めるケースもありますので個別にご相談ください。

その他諸経費

- 諸手数料：１件あたり￥1,000

所定の登録日以降の授業登録、また授業の放棄等以外の通常の手続き、証明書類発行などに関する料金

- 書籍、文具代：実費
- 宿泊料：実費

支払い規定

- 設備費は年度初めのスクーリング初日までに、授業料は、各学期第１スクーリング初日までにその学期に受講する単位数に相当する金額を全額銀行振込あるいは当学院事務局に納入のこと。分割して支払うことを希望する者は、必ずその旨を事務局に事前に連絡し、納入方法と金額を相談し決めて別所定の書類を提出すること。
- 通年科目の授業料は、第１学期に全額支払うか、あるいは各学期に対応する単位数分（通年３単位の科目ならば、１学期あたり１単位分）の金額を他の科目の授業料と共に納入すること。

払い戻し規定

- 授業の履修を放棄・辞退する場合、授業料払い戻し規定は次のとおり。
  所定の授業放棄・辞退届けの提出を完了した時点で、払い戻し金額の算出が可能になる。

各学期における第１スクーリング初日より第１学期スクーリング最終日まで　（授業料の７０％払い戻し）
第１スクーリング終了後より第３スクーリング開始前日まで　（授業料の５０パーセント払い戻し）
第３スクーリング終了後より第５スクーリング開始前日まで　（授業料の３０パーセント払い戻し）
第５スクーリング開始後　（払い戻しはありません）

通年授業については
第２学期開始前日まで　（授業料の５０パーセント払い戻し）
第３学期開始前日まで　（授業料の３０パーセント払い戻し）
第３学期開始後　（払い戻しはありません）

規則・規定

成　績

アンデレ宣教神学院では、成績は通常下に示した４評価尺度によって表されます。

A ＝ 4.0	B ＝ 3.0	C ＝ 2.0	D ＝ 1.0
A^- ＝ 3.7	B^- ＝ 2.7	C^- ＝ 1.7	D^- ＝ 0.7
B^+ ＝ 3.3	C^+ ＝ 2.3	D^+ ＝ 1.3	F^+ ＝ 0.0(不合格)

D+、D、D−については、ある程度の学習内容の修得は認められるが、十分とは言えず、必修科目の場合、履習が義務づけられます。その他、次のような成績表記が用いられます。

W－ 各学期第５スクーリングが開始される以前に、ある科目の履習を放棄・辞退した場合に　与えられる。正式に辞退するまでの期間にしたがって、授業料の一部が返還され、成績評価の計算にＦ(0.0)はつかない。[ただし、第５スクーリング開始以降の放棄・ 辞については、Ｆ(0.0)が与えられるものとする。]

Ｐ－ ４点評価尺度とは無関係に、“合格―不合格”の判断で成績が表される場合その科目の 学習内容を十分に修得し、合格と判定されるとき、Ｐが与えられる。[ただし、Ｐは、４点評価尺度に基づく成績評価の計算には含まれない。]

Ｉ－ 健康上の理由など、特殊な理由で学期中途において、授業の履習継続が不可能となり、学生が将来同じ科目の最履習を望み、これを牧師が妥当と認める場合、Ｉを与え、成績の評価を次回の同科目受講まで保留する。

GPA－４点評価尺度に基づく成績により、個人の成績の平均を１単位あたりにつき算出した得点。

授業出席

○原則的に、学生は履習している全ての科目の全ての授業について、出席が義務付けられています。やむをえない理由のため授業を欠席した場合、欠席した授業時間数の合計が１科目につき、スクーリング１回分の授業数以内であるときには、特にペナルティーはありません。しかし、欠席時間数がその限度を越えた場合、その程度に応じて成績評価時にペナルティーとして減点が施されることがあります。(詳しい欠席限度数については、それぞれの科目の第１回目の授業において説明があります。)

○やむをえず欠席した場合には、欠席した授業の録画などで個別に学習し、遅れをとり戻さなければなりません。このために特別なレポートが課せられることがあります。

集会出席

○牧師・伝道者コースの学生は、スクーリングの期間中に行われている日本福音宣教会・松山福音センター等の公式行事、集会に、避けられない事情がある場合を除いて、当然出席するものと考えられます。

○ただ集会に参加するのみならず、神学生としての証しが立つように積極的に奉仕し、将来の牧師・伝道者を意識した行動が期待されます。

沿 革

創設者：故 万代恒雄 牧師

アンデレ宣教神学院の母体となった日本福音宣教会・松山福音センターは、1956年に万代恒雄牧師が、東京より開拓伝道に着手するため単身来松したことにより始まりました。
この開拓は、無一文で始められ、幾多の苦難を経ましたが、神癒の旗印を掲げて語られた福音により、 聖書の約束のように数々の奇跡が現れ、教会の基礎が固められました。
開拓より10ヵ月で自給態勢が整い、7年目に松山市内に約100坪の土地を購入し、会堂が建設されました。

13年目、松山の教会は大きな試練の中を通されましたが、万代牧師はラジオ伝道の継続と海外伝道の新展開を志向します。この海外伝道は日本のキリスト教史に類を見ないユニークなもので、あくまで現地の人々を対象とし、万代牧師の語る英語によるメッセージにより、インド・ブラジルなどを中心に数千から数万の聴衆を集める大集会が開催されるようになりました。この働きは現在も継続され万代栄嗣牧師によりマレーシア・シンガポール・タイ・フィリピンへと拡大されつづけています。

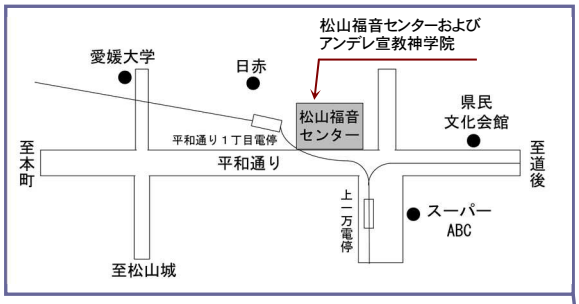
日本の魂の救いのための働きもその後着実に発展し、放送伝道・各種の出版物・各方面に対する講演会活動など、多角的な発展を見、特に多くの有能なクリスチャン・ビジネスマンがキリストの救いにあずかるようになってきたのです。こうしたところから、世界的な視野に基づいた独自の日本に対する伝道の方式が明確になってきたのです。日本での効果的な伝道活動を推進するためには、どうしても社会的に影響力のある働き人の養成が必要不可欠なのです。

実社会から隔絶された献身者の育成ではなく、社会との接点を多くもち、日本の社会に対して大きな影響力のある牧師・伝道者の養成がアンデレ宣教神学院の目指すところです。聖霊の豊かな働きを信じる福音的信仰と実践的行動科学のノウハウに溢れた授業内容により徹底的なキリスト信仰を土台に、将来起こるべき日本のリバイバルに必ず用いられる有能な牧師・伝道師を生み出す一大使命に燃えています。また、現在のキリスト教会が直面している世代交代に伴う牧師後継者のための教育にも注目し時代を担う器を輩出するために力を注いでいます。

アクセス・連絡先

アクセス

- 松山空港から……バスで約40分（リムジンバス南町下車徒歩5分または52番で上一万下車すぐ）
- JR 松山駅から……市内電車で20分（平和通1丁目または上一万下車）
- 松山観光港から……バスで約40分（リムジンバス南町下車徒歩5分）



連絡先

アンデレ宣教神学院

〒790－0807 愛媛県松山市平和通 1-6-6
TEL：089(925)1499 , FAX：089(925)1501
ホームページ：https://aes.mission.or.jp/
E メール：aes@mission.or.jp